

平成 30 年 3 月 22 日

各 位

会 社 名：株式会社エージーピー
 代表者名：代表取締役社長 山口栄一
 (JASDAQ・コード9377)
 問合せ先：常務取締役 村尾学
 電話番号：03-3747-1631
<http://www.agpgroup.co.jp/>

特別損失の計上及び連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 30 年 3 月期第 4 四半期において特別損失を計上するとともに、最近の業績動向を踏まえ、平成 30 年 3 月期（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）の連結業績予想について下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

特別損失による影響は修正後の業績予想に反映されており、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、いずれも前回公表予想を上回る見通しとなっております。なお、現時点で配当予想に変更はございません。

記

1. 特別損失の計上について

平成 30 年 3 月期第 4 四半期において発生が見込まれる主な特別損失は以下のとおりです。

※金額は概算
 (単位：百万円)

		連 結	単 体
減損損失	植物工場	137	137
	電力供給設備 建設仮勘定	54	54
	特許権等	18	—
子会社整理損	出資金	—	25
	貸付金等	—	160
固定資産売却損	特許権等	31	—

①減損損失

- 当社植物工場に減損の兆候が認められ、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき当社の保有する固定資産について将来の回収可能性を検討した結果、特別損失として計上する見込みです。
- 当社電力供給設備の長期滞留建設仮勘定に減損の兆候が認められ、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき特別損失として計上する見込みです。
- 当社の連結子会社であるドクターベジタブルジャパン株式会社において、同社が保有していた特許権を当社に時価売却したこと等に伴い、特別損失として計上する見込みです。

②子会社整理損

当社の連結子会社であるドクターベジタブルジャパン株式会社を清算することによる子会社整理損を特別損失として計上する見込みです。なお、連結業績予想に与える影響はございません。

③固定資産売却損

当社の連結子会社であるドクターベジタブルジャパン株式会社において、同社が保有していた特許権等を時価売却したことに伴い、当該売却額と簿価との差額を特別損失として計上する見込みです。

2. 平成30年3月期の連結業績予想数値の修正（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	14,000	1,300	1,300	770	55円20銭
今回修正予想（B）	13,100	1,320	1,320	800	57円36銭
増減額（B－A）	△900	20	20	30	
増減率（％）	△6.4	1.5	1.5	3.9	
（参考）前期実績 （平成29年3月期）	12,291	1,115	1,132	754	54円09銭

3. 修正の理由

売上高につきましては、前回公表予想を下回る見通しとなったものの、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、いずれも前回公表予想を達成できる見通しとなり、この結果、前年同期比では増収増益、営業利益率は、中期経営計画で目標とした10%を今期で達成する見込みとなりました。

売上高につきましては、主力の動力事業が堅調な需要を背景に順調に売上を伸ばしたものの、フードカート販売において今期納入予定の販売数が未達となったこと、低カリウムレタスや小売電気の販売が伸び悩んだこと等により、前回公表予想を下回る見通しとなりました。

一方で営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、整備事業において空港特殊機械設備での旺盛な業務需要を効率的に受注したことにより利益率が計画対比で改善したこと、動力事業において電力料等の原材料費が計画対比で減少したこと、特別損失の計上はあったものの、非支配株主に帰属する当期純損失が計上されること等により、前回公表予想を上回る見通しとなりました。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上